



発行所 日刊木材新聞社  
〒135-0041 東京都江東区冬木23-4  
編集・営業 ☎03-3820-3500  
FAX03-3820-3519  
総務・販売 ☎03-3820-3511  
FAX03-3820-3518  
https://jfpj.jp/  
eメール info@n-mokuzai.com  
購読料 1ヵ月 6,200円  
©日刊木材新聞社 2022  
本紙の無断複製(コピー・PDF)配布は、著作権の侵害にあたり違法です。

HOP! STEP! WOOD!  
木材建材ウィワリー  
Japan Lumber Reports  
電子版

# 集成材事業が本格始動

## プレス追加し増産へ

集成材事業(株)は、2022年1月17日より、プレス機を追加し、集成材の生産能力を大幅に向上させた。これは、同社の集成材事業が本格始動したことを示している。同社は、これまで主に木材の加工・販売に注力していたが、近年、木材資源の減少や環境意識の高まりを受け、木材の代替品としての集成材の需要が増加している。同社は、この需要に応えるため、最新のプレス機を導入し、生産効率を向上させた。これにより、同社の集成材の生産能力は従来比で約2倍に向上したと見られる。同社は、今後も集成材事業のさらなる拡大を目指している。

同社は、これまで主に木材の加工・販売に注力していたが、近年、木材資源の減少や環境意識の高まりを受け、木材の代替品としての集成材の需要が増加している。同社は、この需要に応えるため、最新のプレス機を導入し、生産効率を向上させた。これにより、同社の集成材の生産能力は従来比で約2倍に向上したと見られる。同社は、今後も集成材事業のさらなる拡大を目指している。

同社は、これまで主に木材の加工・販売に注力していたが、近年、木材資源の減少や環境意識の高まりを受け、木材の代替品としての集成材の需要が増加している。同社は、この需要に応えるため、最新のプレス機を導入し、生産効率を向上させた。これにより、同社の集成材の生産能力は従来比で約2倍に向上したと見られる。同社は、今後も集成材事業のさらなる拡大を目指している。

中川貴文京都大学生存圏研究所准教授は17日、木造住宅耐震シミュレーションソフト「ウォールスタット」機能強化版Ver5を公開したことを明らかにした。Ver4では40坪程度の木造住宅で耐震シミュレーション計算に16分程度掛かっていたものが、今回のバージョンアップで1分程度に短縮し、設計の際、間取りを変えてのシミュレーションの待ち時間がほとんどなくなったことで、住宅会社の設計者などへの普及拡大を見込んでいる。

「ウォールスタット」機能強化版Ver5を公開したことを明らかにした。Ver4では40坪程度の木造住宅で耐震シミュレーション計算に16分程度掛かっていたものが、今回のバージョンアップで1分程度に短縮し、設計の際、間取りを変えてのシミュレーションの待ち時間がほとんどなくなったことで、住宅会社の設計者などへの普及拡大を見込んでいる。

ウォールスタットVer5とウォールスタットのSの商業的な利用は耐震性能見える化協会に会員登録し、ウォールスタットの操作研修を受け、同協会が実施するウォールスタットマスター登録をすれば利用できる。Ver5の研究利用などは従来どおり、フリーで使える。

# 耐震シミュレーション計算を高速化

## 伏図入力不要のWS/Sも開発

京都大学



中川 准教授

中川准教授が国土交通省建築研究所に在籍していた当時に開発。2002年当時

は、シミュレーション計算に2時間以上掛かっていたものが、パソコンの性能向上もあり、07年に53分、11年に39分、18年に16分と

高速化していた。今回のバージョンアップ(Ver5)では、柱のねねの定義を横ずれしないものとしてモデル化して計算の安定化につながるような改良を実施し、アルゴリズムを進化させた。

15年にはプレカットCADとのデータ連動で部材入力の手間が削減できるようになり、計者が業務を止めることなく間取り検討を行う

なかで全棟ウォールスタットで性能検証する動きも出てきた。Ver5では、計算速度の高速化により設計者が業務を止めることなく間取り検討を行う

20社、100種類以上になり、接合金物や制震ダンパー、耐力壁などについて、メーカーが提供するデータを利

用して耐震シミュレーションが可能になる。GUI(入出力インターフェース)により、市販CADソフトとの連携が可能で、今回のバージョンアップでシミュレーション結果の分析やアニメーション作成が簡単になった。

同時に「ウォールスタットS」というソフトでは伏図入力なしで壁、床、開口部などの設定だけで耐震シミュレーションができる。伏図入手が難しい既存住宅や、住宅営業が施工主との間取り打ち合わせの際に使用すること

で、耐震シミュレーションを行いながら、耐震性能を把握しやすくなった。